授　業 科目名	【Ｇ】　経済学Ⅱ	区　　分 選 択	開講年次	【Ｇ】1	単位数	【Ｇ】2
科目区分	基本科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中社・ー・公民・ー）					
授業形態	対面授業					
担当形態	単　独	【Ｇ】　教員の免許状取得のための （中社選択・ー・公民選択・ー）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項：「社会学、経済学」（中一種免社会） 「社会学、経済学（国際経済を含む。）」（高一種免公民）					
サブ タイトル	問題演習を通じて財政の仕組みを理解する		担当者	小川　竜明		

授業概要	【概要】	これまで、本科目を履修する学生の多くが教員志望者や公務員志望者であった。そこで、経済学Ⅱでは、教員採用試験や公務員採用試験で最もよく出題される「財政」に全力を注ぐ。 とは言え、経済学の基本事項が分からなければ、財政を学習してもその効果は乏しい。そのような意味で、前期の「経済学Ⅰ」を履修し単位を修得してから本科目を履修することが望ましいとしている。ただし強制ではないので、経済学Ⅰの学習内容を簡単に振り返りつつ、財政を学習していく。
	【到達目標】	・さまざまな経済事象や経済問題について、自分の頭で考え、自分なりの答えを出し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようになる。 ・物事を深く、且つ多面的に捉えられるようになる。 ・教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を把握し、今後の学習計画が立てられるようになる。
履修条件	真摯な姿勢で授業に臨む意志があり、且つ次の(1)、(2)のいずれかに該当する者。 (1)教員、国家公務員または地方公務員（警察官、消防官を含む）を志し、採用試験に合格するためならいかなる努力も惜しまない者。 (2)経済に関心があり、経済について限りなく深く分かろうとする気概を持つ者。	

アクティブラーニングの方法								
	【 ー 】	事前学習型	【 ー 】	反転授業	【 ー 】	調査学習	【 ー 】	フィールドワーク
	【 ー 】	双方向アンケート	【 ○ 】	グループワーク	【 ○ 】	対話・議論型授業	【 ー 】	ロールプレイ
	【 ー 】	プレゼンテーション	【 ー 】	模擬授業	【 ー 】	PBL	【 ー 】	その他

ディプロマ・ポリシーとの関連性		
	DP（ディプロマ・ポリシー）①	ー　（当てはまらない）
	DP（ディプロマ・ポリシー）②	ー　（当てはまらない）
	DP（ディプロマ・ポリシー）③	◎　（よく当てはまる）
	DP（ディプロマ・ポリシー）④	ー　（当てはまらない）

他科目との関連性	①あらかじめ履修を済ませてほしい科目：経済学Ⅰ ②同時に履修することが望ましい科目：特になし ③当該科目を履修した後で履修してほしい科目：国際経済論Ⅰ、国際経済論Ⅱ
教科書	教科書は使用しない。 授業で使用する資料は担当者が用意し配布する。
参考書	資格試験研究会編『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ7　財政学』実務教育出版、2024年。 田内学『きみのお金は誰のため』東洋経済新報社、2023年。 戸崎肇『実践 日本財政学』芦書房、1996年。 その他、適宜紹介する。
評価方法	下記の(1)小テスト（配点36）、(2)学習到達度確認テスト（配点64）の結果を総合的に勘案し成績を評価する。 (1)小テストは、第3回から第14回の授業開始直後に行う（3点×12回、答案の出来により0点～3点を付与）。 ・小テストは前回学習した内容の理解度を測るものである。 (2)学習到達度確認テストは、授業で学習した内容に沿う形で応用問題を出題する（正解数に応じて得点を付与）。 小テスト、学習到達度確認テストともに、配付した資料やノート、スマートフォン等の電子機器類の持込みはすべて「不可」とする。
フィードバック方法	小テストは採点後、答案を返却する。小テストを採点し誤答が目立った問題については別途解説を行う。
評価基準	・授業内容について、これをよく理解し、答案等に自分の言葉で適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。 ・単元の内容についての理解や表現に、何らかの不適切ないし若干不足する点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とする。 ・単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。 ・小テストを複数回受験しない者や学習到達度確認テストを欠席した者など、評価不能の場合は「F」とする。

授　業 科目名	【Ｇ】　経済学Ⅱ	区　　分 選 択	開講年次	【Ｇ】1	単位数	【Ｇ】2

授業回数	授業内容
1	オリエンテーション、経済を学ぶ上での仕込み(1)―経済学に特有の「費用」の考え方を押さえる 予習：　シラバスを読み、疑問に思った点などを余白にメモしておく（30分）　復習：　授業の説明を100%理解する（150分）
2	経済を学ぶ上での仕込み(2)―需要、供給など市場経済のメカニズムを押さえる 予習：　ワークシート[2]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分）
3	財政を学ぶ上での仕込み(1)―財政の3つの機能(役割)を押さえる 予習：　ワークシート[3]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分）
4	財政を学ぶ上での仕込み(2)―「公共財」「外部性」「情報の非対称性」を通じて「市場の失敗」とは何かを理解する 予習：　ワークシート[4]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分）
5	財政を学ぶ上での仕込み(3)―「ビルト・イン・スタビライザー」と「フィスカル・ポリシー」の違いを押さえ、乗数効果を理解する 予習：　ワークシート[5]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分）
6	財政を学ぶ上での仕込み(4)―「累進課税」と「社会保障」の仕組みを押さえ、「所得再分配の機能」を理解する 予習：　ワークシート[6]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分）
7	財政を学ぶ上での仕込み(5)―「単年度主義」「会計年度独立の原則」など、わが国の予算のルールや仕組みを理解する 予習：　ワークシート[7]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分）
8	わが国の財政事情(1)―「一般会計」「当初予算」の意味を理解し、その規模と構造（内訳）を押さえる 予習：　ワークシート[8]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分）
9	わが国の財政事情(2)―「租税負担率」や「国民負担率」から国民の経済的負担の大きさを計測する 予習：　ワークシート[9]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分）
10	公債(1)―「建設国債」と「特例国債」の違いや「基礎的財政収支（プライマリー・バランス）」を理解する 予習：　ワークシート[10]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分）
11	公債(2)―国債の「市中消化の原則」や国債を償還する仕組みを理解する 予習：　ワークシート[11]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分）
12	公債(3)―公債の発行が経済に与える影響について、代表的な経済学者の理論を押さえる 予習：　ワークシート[12]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分）
13	租税(1)―課税をする上で依拠しなければならない原則を押さえる 予習：　ワークシート[13]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の小テストに備える（135分）
14	租税(2)―わが国における租税の分類や租税制度を理解する 予習：　ワークシート[14]にある問題を解く（45分）　復習：　次回の期末試験に備える（135分）
15	授業の総括（30分）と学習到達度確認テスト（60分） 予習：　これまで学習した内容を振り返る（180分）　復習：　これまで学習した内容を反芻する
その他	・受講者の理解度等を考慮しながら進めていくので、授業内容は変更する場合がある。 ・新聞の経済欄に目を通すことを習慣とし、最新の経済動向を追うこと。 ・真摯に授業を受ける学生の志気を下げるような行為（教室中に響く深い溜め息、大あくび、居眠り、私語、電子機器の使用等）を行った者に対しては退室を命じるなど、厳正に対処する。